

豫科練



No.474 令和5年

1・2月号

○連載《シリーズ海軍及び予科練各種記念碑・慰霊碑》No.17…	2
○連載《シリーズ海軍飛行予科練習生遺稿》……………	3
○名刺広告……………	4
○茨城の戦跡紹介……………	6
○ああ運命の九〇一海軍航空隊……………	7
○三四三空隊史⑩……………	12
○さらば予科練⑧……………	16
○雄翔館見学者所感……………	19
○海原会寄付者芳名簿・事務局日誌……………	22

公益
財団法人

海原会

高松宮妃殿下御歌
予科練習生を偲びてよめる

海を征に

はつ、おほのろ

散華せし

さみら声なく

いく春やへし

散華せし

わらわ

高松宮妃殿下御歌

霞ヶ浦に立ちて海軍飛行
予科練習生を偲びてよめる

海はらに

はたおほそらに

散華せし

さみら声なく

いく春やへし

この御歌は、高松宮喜久子妃殿下の御直筆で、有栖川流と申しあげ、妃殿下はその御宗家にあたられると承ります。

海軍及び予科練各種記念碑・慰霊碑 忠勇義烈の碑 No.17



忠勇義烈の碑は、太平洋戦争初頭に真珠湾を攻撃した第一次特別攻撃隊に続きシドニー攻撃の第二次特別攻撃隊で散華した松尾敬宇大尉（兵66）、都竹正雄二等兵曹の武功を讃える碑である。松尾艇は、トラックで「伊22潜水艦」に搭載、昭和十七年五月十八日出撃、三十一日、中馬艇、伴艇の三隻で突入、それぞれ目標に向け突撃、商船「クタバル」を撃沈し、港内は大混乱に陥ったが、在泊艦艇の集中攻撃を受けて壮烈な戦死をとげた。

六月九日シドニー地区海軍司令官グールド少将は、特潜の勇士に対し、海軍葬を以って葬り、四名の遺体は、交換船「鎌倉丸」で、故国へ送り帰した。松尾艇と中尾艇は繋ぎ合わせ、一隻の型としてキャンベラの戦争博物館に展示されている。松尾大尉は、熊本県出身で日頃から菊池市の菊池神社を崇敬しており、出撃を前にしてお札を拝受し、艇内に祀って散華した。よって遺族らの手によりこの神社に碑を建立した。

- 所在 熊本県 菊池神社
 - 建立日 昭44・11・30
 - 揮毫 小松輝久氏（海軍少将）
 - 問合せ 菊池市 菊池神社
- 電話 0968-25-2549

海軍飛行豫科練習生

遺書 遺詠 遺稿 辞世

遺書

上西 徳英 少尉

回天特別攻撃隊多聞隊 伊号366潜水艦 光基地より出撃
昭和二十年八月十一日沖繩海域にて船団に突入戦死
甲種飛行予科練十三期 福岡県出身 十八歳

お父さん

お父さんの髭は 痛かったです

お母さん

情けは 人の為ならず

忠範よ 最愛の弟よ

日本男子は 御国の楯となれ 他に残すことなし

和ちゃん

海は私です

蒼い静かな海は常の私 逆巻く濤は怒れる私の顔

敏子

すくすくと伸びよ

兄さんは いつでも お前を見ているぞ

賀 正

新年のご挨拶



公益財団法人海原会 理事長 安井 剛

明けましておめでとうございます。
海原会の皆様方には、ご清祥にて
新年をお迎える事とお喜び申し上げます。
令和三年十月に、公益財団法人の
事務所を予科練の聖地「雄翔園」がある阿見町に移転して、
早一年が経過しました。この間、大変多くのご遺族・予科練
同窓生のご家族・あるいは予科練や海原会に関心を持たれる
多くの皆様のご訪問をいただき、事務所移転の目的の一つでも
ある「より多くの方に予科練や海原会の事を知っていただく」
という点において、十分にその成果が得られたものと実感して
おります。

今後は、地元阿見町の皆様との交流を更に広げ、海原会によ
り一層のご理解を頂けるようにその活動を継続して参りたいと
考えております。

会員皆様には、今後ともに倍旧のご理解・ご支援・ご協力を
賜ります様にお願ひ申し上げますとともに、会員皆様の益々の
ご多幸及びご発展を祈念申し上げます、新しい年の始まりのご挨拶
とさせていただきます。

令和五年 元旦

公益財団法人

水交會

会 長

赤星慶治

副 会 長

佐賀幾雄

理 事 長

杉本正彦

副 理 事 長

河野克俊

専 務 理 事

村川 豊

事 務 局 長

長谷川 洋

公益財団法人

特攻隊戦没者慰霊顕彰会

会 長 杉山 蕃

理 事 長 藤田 幸生

副 理 事 長 岩崎 茂

専 務 理 事 石井 光政

公益財団法人 海原会

理 事 長 安井 剛 (二般)

副 理 事 長 酒井 省三 (二般)

副 理 事 長 星指 隆 (二般)

名 譽 会 長 小林 和夫 (乙19)

名 譽 顧 問 菅野 寛也 (二般)

顧 問 池 太郎 (二般)

顧 問 六車 昌晃 (二般)

理 事 平野陽一郎 (二般)
(事務局長)

理 事 保坂 俊雄 (乙23)

理 事 篠田 輝男 (二般)

理 事 山下 桂子 (二般)

理 事 湯原豊一郎 (二般)
(霞ヶ浦支部長)

監 事 豊岡 昭 (甲16)

参 与 行方 滋子 (二般)
(霞ヶ浦副支部長)

賀 正

(公財)海原会・理事長
零戦愛好会・会長

菅野寛也

(公財)海原会・評議員
三重空甲十二期会・代表幹事

久保山賞一

予科練二十四期会世話人代表

岩館芳雄

予科練特飛十期会会長

佐藤建次

(公財)海原会・監事
土空甲飛十六期

豊岡 昭

(公財)海原会・理事・広報担当
予科練二十三期会・会長

保坂俊雄 (23)

「人と自然が作る楽しい」
茨城県稲敷郡阿見町

東洋一と言われた霞ヶ浦航空隊に、若き雛鷺の声がかどまりました。

土浦海軍航空隊は、いま人口四万七千人の町の大きな歴史財産になっています。

阿見町は、現在福祉、緑の保全、生涯学習などに力を入れ、住民参加の町づくりを、積極的に進めています。

穏やかな霞ヶ浦、町中にあふれる桜の花が、今も静かに鎮魂の意を捧げています。

予科練の歴史を後世に奇与するため、阿見町は

「霞ヶ浦平和記念公園」を整備し、平和のシンボル「予科練平和記念館」を建設し、開館しました。

平成二十二年二月一日



回天一型実物大模型 全長14.75米 直径1.0米 時速30ノット 乗員1名

茨城の戦跡紹介

海原会

参与 行方 滋子

今回は、現在の潮来市大生に残された、『北浦海軍航空隊』の戦跡を紹介します。



北浦海軍航空隊は、昭和十六年（一九四一）十月、大生地区・釜谷地区の水田地帯と北浦湖岸を埋め立てて建設工事が始まりました。工事には約三百人の朝鮮人があてられ大生の鳳凰台に建てられた、徴用舎に住み込んでおりました。

翌年の昭和十七年（一九四二）四月に霞ヶ浦海軍航空隊

北浦分遣隊から北浦海軍航空隊として独立し、水上機訓練部隊となりました。

基地は、塀で囲まれていましたが、付近の高台からは訓練の様子が見え、九三式水上中間練習機「赤とんぼ」が離着水したり、旋回したりする様子や操縦を誤った機体が、ばらばらに砕けて墜落する事故などが目撃されました。



昭和二十年（一九四五）、水上機による特攻が開始されると同年五月五日に部隊は解散され訓練基地としての機能を失いました。終戦後は一時鹿島海軍航空隊大生原分遣隊

となりましたが、十月に解散となりました。

① 【現存する戦跡】
滑走台



水上機を台車に載せて、コンクリート製のエプロンから機体を出したり上げたりしたスロープ。



② 現在は、潮来マリナーの敷地となっています。
格納庫の基礎

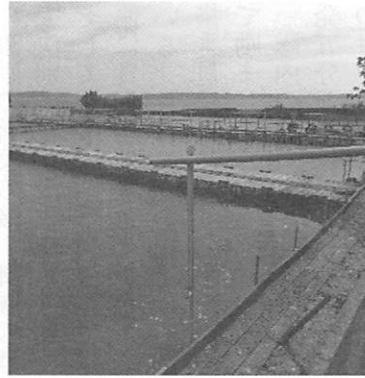


建設途中で中断した巨大な格納庫の基礎



③ ドック跡

現在は、半分が釣り堀となつています。



④ 皇太子明仁殿下御行啓記念碑



昭和十九年（一九四四）五月に、皇太子（当時、現上皇）殿下が北浦海軍航空隊をご見学された際の御行啓記念碑

この碑は、平成三年（一九九三）十二月二十三日、現在の、茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター前に大生原国民学校の卒業生によって建てられました。

【碑文（全文）】

昭和十六年十月霞ヶ浦海軍航空隊北浦分遣隊が大生釜谷両地の水田約五十町歩を買収し七戸の農家を移転させて航空隊建設に着工し完成致しました。

昭和十七年四月北浦海軍航空隊として開隊し水上飛行機訓練場として若鷺予科練の若人育成に大きな役割を果たしました。

昭和十九年五月三日、四日、皇太子殿下には学習院初等科第五学年で学友五十五名と共に当海軍航空隊を御訪問飛行訓練など御見学なされ御宿泊になりました。

当時私達大生原国民学校生徒全員が御歓迎の行事に参加出来ましたことは、誠に意義深いものと考えここに皇太子

殿下御行啓の地と記し、北浦海軍航空隊跡地として後世に伝えるため記念碑を建立します。

⑤ 北浦航空隊物故者水難者慰霊塔

慰霊塔

昭和六十三年（一九九一）三月に建立されました。



【碑文（全文）】

貴様と俺とは
同期の桜
同じ航空隊の
庭に咲く

咲いた花なら

散るのは覚悟

みごと散りましたよ

くのにのため

当時の航空隊の正門にあったサルスベリの木が、今も綺麗に花を咲かせています。

貯蔵庫

民家の敷地に地下貯蔵庫跡が残っていますが、内部に入ることは出来ず見ることは出来ませんでした。

参考文献

◆ 学び・調べ・考えよう

茨城県の戦争遺跡 伊藤純郎編

この手記は、海原会懸賞論文に応募した、元予科練生の手記である。

ああ運命の

九〇一海軍航空隊

丙飛九期

元上飛曹 安倍 孫一

勇躍征途

大湊海軍航空隊稚内基地に

派遣されていた私は突如として南方派遣の天命を受けた。大湊空から八機の零式水偵を台湾の東港空に派遣することになったのだ。私は、一端稚内基地から本隊大湊空に復帰した。小樽、厚岸各基地へ派遣中の機も同時に復帰し、身の回り品の整理も終わり、いよいよ明日は出発である。

午前六時三十分、小崎中尉以下、士官八名、下士官兵十六名の搭乗員は飛行服のまま庁舎二階の御真影奉安室に集合した。海軍大佐小田司令の激励の言葉の後、御賜の酒で決別の盃が汲み交わされた。そして司令は「帝国の存亡は偏に貴官達の双肩にかかっている。しっかり頼むぞ。」と搭乗員一人ひとりの手を握って励ました。ああ感激!!

隊内の拡声機が「搭乗員出発五分前総員見送りの位置につけ」を報じ、軍艦マーチを演奏しだした。

指揮所に行ってみれば、既に整備員の手によって八機の

零式水偵は始動している。エンジン快調、搭乗員が乗り込んだ。

岸壁に立ち並ぶ七〇〇名の隊員の打ち振る帽子に応え、マフラーを振りつつ一機又一機と白波を蹴立てて紺碧の大空に飛揚した。

朝帰りの外出員の帰隊時間を一時間繰り上げ、隊全員で見送らせた司令の思いやりに感激し、「生きて再び大湊の空に帰ることが出来るであろうか」一切の煩惱を捨て、ひたすらに御国に殉ずる覚悟も新たに、ガッチリ組んだ八機編隊は低空で、大湊の上空をゆるやかに旋回し、司令以下見送りの隊員に別れのバンク（合図）を送り、数々の思い

出を後に陸奥湾を抜けて日本海上空に出た。時正に昭和十九年十月二十四日午前七時。

天候快晴視界三十哩、高度五百米、日本海上空を佐世保まで約八百哩、佐世保で燃料補給して一泊、翌日は佐世保東港間約一千哩を無着水の予

定、さすがは新鋭機だけあって足が長い。

途中の戦闘を予測して、燃料千四百立満タン、六十キロ弾二発、七ミリ七機銃（七七ミリ機銃）弾三弾倉約三百発、無線機及び電探又は磁気探その他兵装を完備し、搭乗員の士気も軒昂。征途二日目天候急変で奄美大島の古仁屋湾に全機着水して天候の回復を待った。予定より一日遅れで台湾西側を縦断し、目的地の東港空に無事到着したのは十月二十六日午後二時をすぎた。

東港空司令の蘇生

南国の陽はかんかん照りつけ、愛機についた水しぶきは瞬間にして蒸発し塩の結晶を残していた。十月も終わりというのに三十三度Cの炎天に汗にまみれ、長旅の疲れも見せず、小崎中尉以下二四名は指揮所前に整列した。東港空司令に着任の報告である。形式通りの報告のあと、防

暑服に身を固めた恰幅のよい司令兼副長、上出大佐はその巨体を前に乗り出して、「危急存亡のこの戦局挽回のときに当り、八機の零式水偵と何れも特修科出身の二四名の精鋭を迎えて、余は蘇生の思いがした。海戦の勝敗は一に偵察力の優劣によって決するのだ、：（中略）今後諸士の活躍を期待して止まぬ」と結ばれた。

先日来敵艦載機の大空襲を受けた東港空は、格納庫の屋根は吹っ飛び、穴だらけの庫内で燃えた二式飛行艇の残骸がまだくすぶっていた。別の格納庫には危うく難を逃れた零式水偵二機が翼を休めており、格納庫の内外では爆弾の破片や敵機が発射した十三ミリ機銃弾が散らばっていた。何十機かあったであろうこの水上機部隊も今は見る影もなく、たった二機を残して壊滅し、哀れであり、また空襲の激しさを物語つてもいた。上出大佐が「余は蘇生の思

いがした」といった気持がこれで見取れた。

私たち下士官兵十六名は、その夜は道場の一角に寝ることになった。

夕方には、酒保係の兵隊が「注文籠三杯に山と積まれたバナナをリヤカーで運んで来た。司令からの贈り物だという。一同喜色満面歓声をあげた。ここ数年間バナナを見たことがない私たちの喜びは無理もなかった。

午後八時になってもまだ陽が沈まない。浴槽で長旅の汗を流しながら天井を見上げれば、吹き飛ばされた屋根からさんさんとまだ強い夕方の陽射しが照り込んでいる。これを見た私は「ああ、やっぱり俺も前線に来たんだなあ」と感慨一入であった。

やがて陽が沈み、あたりが静寂になった。稚内ではストーブを燃やしているのに、ここではホタルが飛んでいる。空は星が明るく大きい、北斗七星の柄杓の型が逆に見える

のはなぜか。

翌日は工作兵の手によって東側格納庫の一角に私たちの居住区を作ってくれた。その入口に「大湊派遣隊」と墨痕鮮やかに書かれた看板を掲げた。

東港よかとこ

翌日は東港の町にと出てみた。隊より約三キロメートルのところであり、道路の両側は広々とした田圃が広がり、秋の収穫の最中である。スゲ笠を冠むった農夫が汗を流して稲を刈っているかと思うと隣の田圃では水牛を使って田植用意をしている。これを見た私は「ハハア、台湾ではやっぱり米は年に二度植えるんだなあ」と思い、話には聞いていたが見るのは初めてであり、感心したものだ。

或る水溜りに近づけば泥水の中に水牛が寝ていて水面から鼻の穴だけ出して息をしている。人が近づけば「のそりのそりと起き上がって歩き出

す。そんな風景を見ながら暫く歩いていたら、空の牛車を水牛が引いているのに出くわした。歩いている私達を見た車夫は、町まで無料で乗せてくれるという。炎天下に素足（よく見ると足の爪先だけ何かつけているようだった）に半袖半ズボンの車夫は左手に握った砂糖キビを噛んでは、「べっべっ」と路面にカスを吐き出して、時々牛車に積んだ水桶の水を柄杓で汲んで水牛の背にかけていた。水牛は常に水分を与えないと弱るらしい。私達は乗らなくて車夫と一緒に歩いた。途中アヒルの大群を見て車夫はこう説明した。

アヒルの大群等は島内（台湾）の餌を求めて旅をするもので、先頭のボス一羽が歩けば何百羽のアヒルが後に続くので管理人は一人で足りる。決して単独行動はとらないのが習性だという。

東港の町には米軍は一発の爆弾も落としておらず、窓の

少ない厚い壁の建物がギッシリ並んでいる。繁華街に出てみれば衣料食糧から日用品に至るまで豊富にあり、しかもこれらが全部自由販売になっているのには驚いた。内地ではタオル一本買うにも衣料切符がないと買えない時期であったからだ。

制空権が欲しい

東港空では飛行艇班と水偵班に分かれていて、水偵班は東港空と大湊派遣隊に区別されていて、私たちは小崎中尉を指揮官としてバシー海峡における船団の護衛と、バシー海峡及び台湾沖の索敵であった。七ミリ七機銃弾三彈倉と六十キロ爆弾を四発抱いて毎日飛び立った。ガランビ岬上空を通過し、バシー海峡に出て予定コースを飛行する。

南国の太陽はキラキラと輝いている。時たまスコールに見舞われ風防の隙間から大量の雨が機内に浸入するが、数十秒もたてば元のカンカン照

り、見渡す限り海と空ばかり前方水平線上に黒煙を発見した。味方船団のものである。近づくにつれマストが見え、煙突が、そして船体がくつきりと浮かび上がる。当時はまだ石炭を焚いていたのだ。五

「しつかり頼むぞ」と言っているようだ。こちらからも翼を左右に振って、見せた。私は「まかせとけ」と言ったが爆音に遮られてこれは聞こえない。

ないし六隻の貨物船は前後左右四隻の駆潜艇又は駆逐艦に護られて、敵潜水艦の攻撃を避けるため「く」の字運動を繰り返しながらジグザグコースをとって南下中である。比島救援の補給物資はこのようにして後から後から送り込まれている。我が機はこれらの船団を無事ルソン島まで護衛しなければならぬ。高度五百米で船団の上空をぐるぐる旋回しながら目を皿にして敵潜水艦を警戒し、発見すれば一撃のもとに撃沈する気構えを抱いていた。護衛艦の甲板には数人の兵隊が立っているが見張員ではなさそうだ。交代で涼みに出ているようだった。飛行機に向かって手を振っている。

しかしながら十月十二日から十三日にかけて行われた台湾沖航空戦で我が方は三百十一機の未帰還機を出し、十月二十三日から二十六日にかけてレイテ沖海戦の失敗で味方の虎の子空母瑞鶴、瑞鳳、千歳、千代田の四空母を失い、現役空母はゼロとなり、不沈戦艦「武蔵」も沈み、加えて比島方面の航空兵力は激減し制空権は連合国側にゆだねられ、船団護衛中B-24の襲撃を受け、護衛艦艇の掩護射撃を得ての空中戦が展開されること暫々、これが護衛機の宿命となってきた。

通信略語の無線を最期に消息を絶った。その後は防御力増強のため後席に二十ミリ機銃を搭載し、一部の零水には中間席に七ミリ七機銃を予備として取り付けたものもあつたが、二十ミリ機銃では発射時の振動が激しく、かつ、搭載弾数が少ないので十三ミリ機銃に切り替えて船団護衛や索敵が強行された。

十一月〇日、どこから飛んできたのか東港空に一機の二式飛行艇が着水に失敗し、真二つに大破沈没して相当数の高官が死亡した。これらの人々は大本営から派遣された作戦参謀外高級将校らしいが、当時極秘とされている事件だけに、この飛行機事故による死亡者は誰か、何のためか、私たちに東港空に來たのか、私たちに東港空には知ることが出来なかった。しかし東港空の上層部の人々の緊張と狼狽した雰囲気を感じとり、これはただ事ではないと直感したが、防衛庁戦史室にもこの記録はな

九〇一空に合併さる

十二月十五日付けで九〇一空が編成され、司令更迭で海軍少将堀内茂忠が九〇一空司令官として着任し、本隊を東港におき、将官旗が高々と揚がり、台湾全土の水上機基地及び香港、アモイ、三亜、マニラ、カムランの各水上機基地が九〇一空の傘下に入った。私たちが大湊派遣隊の生き残り搭乗員は昭和二十年一月一日付けで九〇一空に合併され、傘下の各水上機基地に配置されて「大湊派遣隊」の看板は僅か二ヶ月余りで取り外され二年間お世話になった大湊空の先輩や同僚と別れねばならなくなつた。そして本隊に残つた私は東港空の兵舎に引越し、九〇一空搭乗員として船団護衛や索敵の任についたが制空権のない船団護衛や索敵に、補給を上回る機体の損傷や喪失、搭乗員の戦死この苦戦は筆舌に尽くし難いものが

あり、又船団の被害も出だした。用務飛行で南方基地に飛ぶのも命掛けであった九〇一空傘下の各水上機基地に分散された大湊派遣隊員はいづ、どこの水上機基地で、誰が戦死したか全く判らない。

比島の搭乗員救出

レイテ沖海戦で勝ち誇った敵は膨大な物量をもってレイテ島上陸を敢行、この攻防戦で比島方面の味方航空部隊の戦力は極度に消耗した。その後の敵の大空襲によって比島方面の陸海軍の航空機は完全に破壊され飛行可能機は皆無となったので、航空部隊は全員山下大将の指揮下に入り特別陸戦隊を編成するが、搭乗員だけは次期作戦に備えて救出せよとの命により、完全に制空権を失った大空を、暗夜を利用して二式飛行艇による救出作戦が立てられた。

昭和二十年一月六日の暗夜に二式飛行艇一機が密かに東港を飛び立った。比島方面の

水上機搭乗員はマニラに集結して救出機の到着を今や遅しと待っていた。が、第一次救出機は発進後三十分して消息を絶った。敵夜間戦闘機に急襲されたのか。翌一月七日第二次救出機は時間を下げて午後十一時発進、東港マニラ間往復約九百哩を夜明け前までに帰投せねばならない無理な飛行計画であったが、これが見事に成功して翌朝は着の身着のまま、防暑服に飛行靴だけの搭乗員三十数人を救出することが出来た。荷物は全部焼却し身一つで帰投したのであった。このようにして陸上機部隊も、陸軍パイロットもそれぞれ台湾の航空隊が救出したと聞いている。

死の食糧輸送

陸戦隊に合流した比島方面の整備員たちが食糧欠乏に苦慮しているのを見かねた九〇一空司令官堀内少将は零水一機を使用して、せめて甘味品でも与えようとの親心から、

一月十一日暗夜を利用して再度マニラ決死行が行なわれた。マニラから搭乗員を救出して四日しか経っていないから、小型機なら隠密飛行が可能と判断したらしい。驚いたことには零水から電探と機銃その他の火器全部を取り外し搭乗員を一人減らし、その重量分だけ甘味品を満載した。その決死行に選ばれた操縦員は比島から救出した十六志丙飛八期の西岡一飛曹で、私より約六か月早く稚内から南方戦線に派遣された猛者であった。

滑走台でプロペラを回していた整備員に代わって西岡一飛曹は操縦席についた。制空権を失った大空を機銃も持たず電探もなく、この暗黒な空を果たして無事マニラに到着するであろうか、まさしく死の輸送でなくて何であろう。見送る隊員も皆こう考えていた。出発前私は西岡機の主翼に登り、西岡一飛曹の右手を飛行手袋の上からしつか

り握り、「西岡、無事を祈る、必ず帰って来い」と言葉短く励ました。彼は私の手をしっかりと握り返して淋しく笑って頷いた。その落ち着いた態度を見たとき、死を覚悟して出発する、彼の心情が読み取れた。生還の比率は五分と五分でもよい、比島方面で苦労を共にした整備員に対し、「自分で出来るだけのことはしてやりたい」という正義感が彼の覚悟を決めさせたものと思われる。だが、いつもの彼に似合わず淋しそうな笑顔が気にかかった。中間席に乗っているのは四日前に比島から救出した搭乗員で名は知らなかった。

エンジン快調、午後十一時西岡一飛曹の飛行手袋の両手が垂直に挙げられ、静かに両側に開かれて水平の位置で止めた時、整備長のくわえた呼子笛がエンジンの爆音の中で力強く鳴り響いた。これを合図に牽引車が後退して運搬車と共に西岡機は、水しぶきを

あげて暗夜の海面に滑り込んだ。ああ！。運命の一瞬である。離水海面で風に立った西岡機はスロットル全開、海水を蹴立てて暗夜の上空に飛揚して、低空で東港上空をゆるやかに旋回し南の方に消えて行った。隊員は西岡機が見えなくなるまで帽子を振っていた。夜が深々と更け渡る南国の正月、ああ運命の西岡機は再び帰って来なかった。そしてマニラ到着の知らせもなかった。僚友と満載した甘味品と共に南海の藻屑と消えたのだ。(当時の九〇一空日誌には「水偵一機要務飛行未帰還」と簡単に書かれている)

続く

三四三空隊史(16)

ただいま

自転車の試運転中

山田 稔(工作)

二十年四月頃と記憶してい

る。戦い酣の日夜、沖繩陥落後敵の空襲はさらに度を加えてきた。サイレンの鳴り響くある朝工作科分隊課業整列時分隊長より「大村基地へ派遣隊を進出させる。予定作業かかれ」の命令通り総員各配置につく。

私は板金班の先任班長赤尾兵曹(健在)に「大村基地派遣隊に私が行きます」と申し出た。

「山田兵曹行ってくれるか」ということで、私も行くことなりその日の夕食後、送別会のようなことを戦友がしてくれた。

こんなとき必ず出るのが「松山紫電隊の唄」である。

一、真の男の顔見たか

松山基地の紫電隊

にがみ走って黒いけど

じつと見つめるあの瞳

二、あの娘が招く松山へ

行きたい思いを抱きしめ

て 男やもめの基地隊ぐ

らし 赤い花咲きや血も

躍る

三、さらば松山いざさらば

いとしあの娘いざさら

ば

今度会うときや夫婦で暮らす

さらば松山有難う

その後、掌工作長山崎中尉(死亡)を隊長に下士官三名兵五名は陸路大村基地に進出を命ぜられた。大村基地も本土決戦場と化している。

「全飛行隊即時待機」で紫電改が一斉にエンジン始動、轟音が朝から鳴り響いていた。五番機を補修するよう命令が下る。直ちに工作補修班を編成、工具箱を担ぎ現場に急行した。



大村基地工作科宿舎前にて

ッカリ開いていた。またよくある補修だが、引込式尾輪の取付金具の取替え補修もある。大変な作業で我々は第十六番円筐補修といていた。

尾輪取付円筐を脱却して新しく作り復帰させる作業で、懐中電燈の明かりをたよりに徹夜作業になる事もあった。それを我々工作科の板金班は最大の誇りとしていた。

飛行指揮所に吹流しがひるがえり風の方向が示されている。今日は飛行猛訓練か出撃である。搭乗員は飛行服に身を固め自分の出番を待っている。飛行場より一機二機と勇ましく離陸する。今日も大戦果であることを祈る。

二日前士官搭乗員が工作科作業班に来られ、急いで自転車を修理せよと命ぜられた。幸いにも部下に自転車の修理経験者がいたので、速やかに直すよう命じた。が何分にも部品不足のため大変苦勞して直したようだった。

そして今朝、掩体壕に部下

との打合わせに行くのにその
自転車が無断使用した。

帰路S士官に見つかる。

「こら貴様、うちの自転車に
乗ってなんだ!」「修理が終
わったので試運転をしており
ます」と弁解する。

「なに!おれたちは何事も機
敏にするためだけ苦労し
ているか」というなり二、三
発殴られた。「速やかに指揮
所に持つて来い」といい残し
て立ち去られた。この日もち
ようど猛訓練中で、指揮所
は飛行隊の総員が待機中であ
った。私も悪いことをしたと思
った。

「ただ今自転車を持つて参り
ました」とS士官に報告し、
「よし」とばかり待機中の搭
乗員から四、五十発殴られて
顔が變形した思い出がある。
この一件は今なお戦友会の話
り草となっており、一生忘れ
ることの出来ない一頁となっ
ている。

工作科作業も多くなり、六
月に入って松山基地より多数

の応援隊を迎えた。

隊長高安兵曹(健在)以下
下士官四名兵八名。それまで
私たちは工作科作業場兼兵舎
で過ごしていたが、敵もこの
頃瞬発信管の爆弾を使い始め
粉々になった鉄片が放射状に
広がる仕掛けになっており、
半径三十メートル以内には居るものは
鉄片を受けて倒れ即死した。

高田兵曹を偲びつゝ、

清水 博

(工作・旧姓浜崎)

正月気分も抜けた昭和二十
年一月四日、懐しい思い出多
い詫間海軍航空隊で松山への
転勤命令を受けた。遺書を認
め、私物は整理してトランク
につめ込み、詫間空の曳船で
送られ何の思い残すこともな
い。鋭気は充分養った。昭和
十九年古賀峰一長官の愛機二
式飛行艇の修理作業などの思
い出を残し、松山への汽車の
中でお互いに戦死した者の骨
を拾う約束をした。

無事松山基地到着。先任下
士官赤尾佐一上工曹に手厚く
迎えられ、二十耗四門の紫電
改を初めて見た。

数日が過ぎて開隊式があつ
た。最初の部隊名は松部隊で
ある。号令台に立たれた源田
実大佐の訓示が気に入った。
「お前達の生命を私に預けて
くれ」さすが真珠湾攻撃の参
謀だけのことはある。深い印
象を受けた。後に剣部隊と改
名された。

搭乗員の猛訓練に伴い、い
わば縁の下の力持ち的存在の
工作科の補修作業も日増しに
激しく、夜間作業の連続。で
も若さにまかせて愉快に張切
ている。工作科作業も多くな
り、六月に入って松山基地味
もまた格別である。

ある日、上陸より帰隊する
や、先任下士官浅井鈴吉上工
曹より転勤命令を受けた。気
の合った愉快な仲間とも別れ
の日が訪れた。

「本日午後一時ダグラス便乗
九州鹿屋基地へ転勤」の命に

早速下宿へ別れを告げると共
に下宿代金拾円也を支払い、
第一種軍装と軍帽を預け、私
の戦死の報せがあつた時はこ
の軍服を郷里へ送つてもらふ
ように、依頼して別れた。

私は長として兵三名、皮肉
なことに私と同年兵黒沢利男
上工兵も含まれている。彼は
事情があつて入院、そのため
進級が遅れていた。豪放さは
ないが温厚誠実型である。

予定通りダグラス機は空路
鹿屋基地へと飛んだ。突然機
長から「機窓から左右警戒を
厳にせよ」との命令。つまり
我々は見張番兵である。

一瞬緊張したが空路無事目
的地鹿屋基地に到着。一式陸
攻基地だけあつて飛行場のス
ケールが違う。格納庫の屋根
は無残にもトタン板はぶら下
がり、弾痕は生々しく無数に
残っている。案内された薄暗い防
空壕が我々工作科員の居住区
である。電燈もなければ寝台
もない。

ご塵一枚敷きに毛布一枚、蠟燭点して着のみ着のまま不安の一夜を明かし、以後この状態が続く。

パッキン士官

鹿屋基地到着間もなく一人の士官が工作科に訪れた。話の内容から察するに整備科の分隊長らしい。「防空壕へ自分の寝台を作れ」との命令。私は「言葉返すようですが板金専修のみで木工具は全然ありません」と答えた。「貴様達は工作科ではないか？」と語気が荒い。この士官は工作科といえども出来るように思っているらしい。これ以上説明の余地なしとあきらめ命令に従うことにした。

の同年兵に挙手注目の敬礼をした。リヤカーを引っぱって防空壕に着き、素人作りの寝台を作り目的は一応終了。

工具は工作科員にとつて兵器も同じ。丁寧に手入れをして我が防空壕に帰った頃は、とつくに太陽は西山に没し、飛行場には夜間燈の燈が見えた。パッキン士官は満足顔ではなかった。

朝の課業整理は必ずある。各分隊毎に整理して分隊士または先任下士官が分隊名、人員を報告。私もミニ分隊ながら大声で工作科報告をする。整理後、そのパッキン士官は工作科より夜間番兵を一名出せという。今日から早速紫電改の補修作業が待っている。食卓番一名に番兵一名抜けたら作業遂行上大変なことになる。私は頑として抵抗した。懲罰覚悟の抵抗である。善行章一本落せばなんとかなると思つた。番兵の件は出さなくとも一応落着いた。

くそパッキン士官め!!俺だつて工作科の代表だ。分隊士兼先任下士官だ。

総員帽振れ

紫電改も出撃々と連日連夜。それに伴い工作科の作業は日ごとに増加。翼、胴体、方向舵等の左右のバランス、風の抵抗、原型の保持、亀裂を最小限にとどめる等、あらゆる作業が重なる。とくに舵の補修は神経をすり減らす。口や数字では表わせないデリケートな生き物である。少しのミスも許さない。少しのミスも大袈裟ではないが、尊いパイロットの生命にも及び兼ねない。亀裂が増せば空中分解の恐れなきにしもあらず。細心の注意を要し汗にまみれて本分を尽くす。詫間空時代は二式飛行艇、二式小艇、九七飛行艇と海軍航空史上最大級の飛行機だけに材料は沢山要するが、作業は紫電改に比較して割りと楽であつた。

苛酷な夜間作業が終わると

本当にほっとするが「酒保入場許す」があるでなし、上陸があるでなし、味気ない基地暮しであつた。でも若い兵隊は家族並みの生活で文句一ついわず、巡検後の整理も軍人精神注入棒の味も最近はないけれどキリキリよく忠実に軍務に精励した。出撃から帰還まではやはり修補箇所が心配である。

紫電改が帰るや誰よりもいち早く駆け寄るのは工作科である。補修箇所は大丈夫か？それ以上の亀裂はないか？入念に点検する。搭乗員の苦勞はもちろんのこと、よく働きよく帰還したと、優しく傷痕に素手を差し延べ明日もまた頑張れよと心の中で励ましてやる。

苛酷な作業で疲れた身体を全裸になって薄暗い洗面所で冷水摩擦する。結構身体は爽快である。明日の作業が待っている。床につくや他の方でガヤガヤ声がある。特攻隊の壮行会だ。少々喧しくとも我

慢してやれ。明日若い生命を散らす人。

この若桜のことを思えばまだ我々は幸せである。生命がまだあるから暗い防空壕でも辛抱しなくちや。

○九〇〇出撃用意!!

昨夜酒呑み交した若桜達である。日の丸の鉢巻、真新しい飛行服に身を包み、真新しい飛行帽に飛行半長靴。一式陸攻の機上には八幡大菩薩の真新しい幟が風に靡く。総員拳手注目の敬礼。身震いするほどの緊張である。片道切符の出撃である。帰りの燃料は零。可哀想である。肉親だつたらとてもじゃないがこの神経では、立っておれないだろう。特攻隊員は心の乱れもなく静かに出撃発進。総員帽振れ!!この光景は毎日七、八名ずつ四月十七日まで続いた。

高田兵曹の戦死

四月十七日、松山基地から甲斐工曹長、高田忠義上工曹がダグラス便でやってきた。

やれやれこれでやつと水を得た魚のような気がした。高

田兵曹が「オイ、浜崎兵曹、母上からの、預かり物があるぞ」と富山の薬屋の置袋を持ってきてくれた。中にはゆで玉子と蚕豆が一杯詰め込んであった。ありし日の松山時代が懐しい。有難い。その母も今年の暮は一周忌である。それから国分飛行場へ飛んだ。

四月十八日午前八時十八分B 29の猛攻で高田兵曹戦死。黒沢上工兵左足貫通、私は右胸部爆弾盲管弾片創。傷痕軍人記章すら渡らぬ傷痕軍人である。

爆撃時、補修機はC二八号機紫電改であった。その隣の飛行機は国分航空隊備品?

竹でカモフラージュしてあったが直撃爆弾命中。中の兵隊は竹が邪魔して出られない。火の海だ。救いを求めても近寄ることはできない。

何時燃料タンクが爆発するか判らん。死に物狂いで焼け死んだ。この目で見た生地獄

とはこのことだ。

高田兵曹―几帳面で木工技術抜群、豪放な上下の差をつけない部下思いの優しい面のある粹な下士官であった。

昨日は鹿屋、今日は国分と高田兵曹も忙しい。珍らしく郷里の妹さん宛に手紙を書いている姿は、虫の知らせかどことなく寂しい影があった。今もなお朝な夕な高田兵曹安らかに眠ってくださいと合掌する。

負傷して後黒沢と二人で再度爆撃に会い、水路に飛び込み、小川の水が大袈裟ではな

いが真っ赤に染まった。飛行場から霧島海軍病院へ。手術前と手術中七人の看護婦に手足を縛られ局部麻醉。軍医と看護婦、看護婦と私と

司令面会

看護婦が知らせに来了。昼食を終えてまだ枕元に食器がそのまま残っている。司令と

下士官といえは海軍では天地の差よりも大きい。

その司令が見舞とは。何かの間違いであろう。いや人違

いだらう。看護婦の言葉を疑った。副官を先頭に三名の士官が私のベットの横で、立ち止った。私は天井を向いて寝ていた。紛れもない三四三空の司令である。天にも昇る驚きである。副官が司令に私を紹介した。

「この兵曹は松山基地の演芸会で賞をとった兵曹です」司令は鋭い眼光の奥に部下

思いの優しい微笑を浮かべ、「食事はまだ済んだか?」カチカチに緊張した私は「ハイ」の一言。深々と頭を下げる。

司令「心配せず充分静養せよ」

「有難うございます」副官が耳元で小さな声で「羊羹を司令からいただいたから」と、そおとと渡してくれた。

せめて半身だけでも立ちあがってお礼を言いたいのが司令は「そのまま、そのまま」と静かに防空壕の病室を去られた。

とたん身にあまる光栄に浴し、止めどもなく涙が湧き出た。

これが本当の嬉し涙というものか。あの感激は今もなお永久に忘却することはない。

あの人が帝国海軍で源田サ一カスと謳われた名パイロットの源田大佐かと、胸に焼きつく熱い涙だけが何時までも湧いてくる。

ようし全快の暁は誰のためでもない。あの司令のために一命を捧げようと決意を新たに、五月十五日再び松山基地へ帰った。

その頃国分基地紫電改隊は大村基地に飛んでいた。

現在私の甥浜崎行治が、海上自衛隊呉工作所で末席を汚している。何とぞ先輩諸氏の御指導御鞭撻賜りますようお願い

願います。

何時までも元気で海国日本を護るために、頑張ってもらいたい。

御国のために花と散った戦友の英霊を慰めるとともに、工作科の華、高田兵曹の御冥福を祈って朝な夕なに合掌する。

続く

さらば予科練 ⑧

乙飛十九期 山田 稔

派遣飛行予科練生に

栄光あれ

ご承知の如く、私たちの入隊は十七年十二月でした。私は同年の冬二月受験し、意外にも合格し「若」のため十八期（十七年五月入隊）になれなかったのです。

「意外」とは皆さんも意外に思われるかもしれませんが私の本命は、父の希望もあり埼玉師範で貧弱な私などあの過酷な訓練の予科練は高嶺の

花、落ちて当たり前、腕試しの軽い気持ちでしたが、アレヨアレヨという間に天下の予科練生になっていて、全く私自身雲の上に乗った気分なのです。

まさに、まさにです。

私が「特乙」という存在に気がついたのは、四月に入つた一期生が卒業する九月秋頃で、優しいそれこそ慈父のよくな分隊長が「今度、特乙の方へ転勤だ」と言うことを聞いたのが最初です。

十八年四月から二か月毎に当初、岩国その後三重に入隊したなど、全く知りませんでした。

そして特乙の方との接点は二十年二月羽田の飛練へ行つた時「助教に特乙がいるぞ」で気が付いた程度で、その後終戦間近、多分特乙の五期生（十八年十二月入隊）の方と一緒に化兵隊という組織の中でした。

今迄、私は重大な過ちを犯していません。そのことに気

づいたのは、先が見えてきた最近のことで、実に申し訳ない気分です。というのは、予科練の本流は、三重や鹿児島等二十期以降二十四期の皆さん達と思っていました。うでなかつたのです。

こんなことを書くと、以上の皆さん方は、大ブーイングの中には怒鳴り出す方もいると思いますが、真実は真実で然もそこには、当時置かれていた日本海軍の止むに止まれぬ対応、そして苛烈な特攻へと必然的に流れていく時代の悲劇的な運命とも言うべきものがあつたのです。

ガダルカナル以降、相次ぐ搭乗員の損耗は、一機も早く飛行機を！搭乗員を！という前線からの血の叫びにどう答えたらいいか？もう通常の養成では間に合わない。速成しかない。

それには優秀な若者を選抜し訓練しかない、そこで特乙制度が発足したのです。（後に生まれた派遣飛行予科

練習生などの制度もおなじ) こうした経過は、すでに皆さん方も承知のことと思います。が、その選抜方法は、頭脳、体格とも優秀な若者であること、そうでなければ短期間で優秀な搭乗員にはなれません。ここが問題です。

その選抜は十九期頃まではなかつたのです。なかつたと言つて私たちの期が(それ以前の期も)特に優秀者ぞろいと言ふ事は言えぬでしょう。なんとすれば私のような「ヤワ」な者もいたのですから。ダイヤに例えれば「玉」が速成組「石」がいわゆる本科生ということになるのです。そして速成科ができた二十期以降に言えるのではないでしようか。

これは厳然たる事実であり、それが差し迫つた難局を乗り切るための唯一の手段でもあつたのですから。私の近辺の例ですが、後輩を見ると運動神経にどうかと思ふ人、頭脳必ずしも優秀?

とは思えない人を、見かけます。

失礼かもしれませんが、やはり玉を抜いた後の石なのです。本当に、速成科優先、速成科ありきなのです。

十九年五月十五日以降毎月申良や人吉、その他に入隊予科練生などもやはり選抜され速戦力となるべく、なおかつ困難な道を進められた方々は勿論「玉」の方々なのです。どちらかと言うと、今までは本末転倒していたように思われます。

やはり事實は事實として、正しく、後世に予科練史の続く限りは伝えねばならぬと思ひます。

さて、速成科に選ばれた、特乙の方々は見事当局の期待に答え、終戦に至るまでの、熾烈な空の戦いを戦い抜きました。

そして、あの悲劇とも言うべき、特攻にも進んで身を投じ、一期生の入隊者一五八五名中実に戦死者は八二六名、

(うち特攻一四九名)。

実に五五%の方々が残らぬ英霊となられたのです。

二か月毎に入られた二期、三期以下の方々も勇戦され四期の方で特攻に出撃された勇士の方もおられます。

二十年二月十一日、ここ高知空でも搭乗員全員集合があり、「特攻隊志願を集める。熱望、希望、望の文字のいづれかに○印をつけ提出するよう」海軍便箋が一枚入った封筒を渡され、

「決して強制はしない、よく考えたうえで提出せよ」と通達された時、この白菊特攻に一番先に立ち上がったのは特乙の若い連中だったと、教員の友田兵曹は語っています。

また、他の隊でも特攻への志願を要求された時、迷い、考へて他の搭乗員を尻目に「熱望だ。熱望だ」と特乙の方々が立ち上がったというこゝとです。

深い話ですね。実に崇高で

純真で、健気で愛国心の塊のような方々ではないでしようか!

特乙の方々が入隊以前でもそして以後も困難に身を捧げる、一途な精神に徹底しておられたのです。何としても、感謝と深い崇敬の念を抱かずにはおられません。

私はお断りしておきますが特乙の方々や、派遣予科練の皆さんに「おべんちゃら」するとか、よく思われたくて、本科生を貶し、速成科を必要以上に持ち上げるとか、そんな考えは少しもなく、ただ、先ほども書いた通り、真実は真実として皆さんにも知ってもらい、また予科練史に正しく反映していただくよう、寸足らずの筆を執つた次第です。

終わりに、奮闘していただいた、特乙、そして派遣予科練生に深い敬意と感謝をささげ、その名譽と栄光が、輝かれんことを祈るものです。

続く

四十三年ぶり、

遺品の名札が還る

フィリピン沖に散った

若き予科練生

激戦の最中に咲いた日・米海の
男の哀しくも美しき感動秘話

この物語は一九八六年もクリ
スマスに近い十二月のある日
在アメリカ日本大使館宛の左
のような手紙から始まった。

○ 親愛なる大使殿

同封した名札は、第二次世
界大戦中の若き兵士の戦死と
水葬の状況を遺族に知らせた
ため、名札の氏名の身元が
最もよく確認できる日本国軍
戦後処理の然るべき窓口にか
送るよう貴殿にお願いし、
取扱いを委託するものです。
この手紙の差出人は、ヴァ
イニング・A・シャーマンと
いう合衆国退役海軍大尉であ
る。

どんな内容だか、読者も早
く知りたいと思うので、手紙

の先を急ぎます。

○

この名札は、先日私がU・
S・S一五〇〇トン駆逐艦の
士官と水兵の懇親会に出席し
た時に、若い兵士の最後の様
子を遺族に知らせることに、
私が全力を尽くすということ
で手に入れたものです。

以下手紙は長文であるが、
なるべく本旨をそぐわぬ程度
に、要約します。

私は副長として前記駆逐艦
に乗艦し、フィリピンにおけ
るアメリカ軍初上陸の準備を
支援する大空母機動艦隊の一
員でした。

壮絶な空中戦が私たちの艦
の目前で展開し、日本の攻撃
機が撃墜されたことが確認さ
れました。

私の艦は生存可能者を救助
するために墜落地点に急行し
ました。

：が、不幸にして生存者は
いませんでした。

しかし、私たちは若い兵士
の遺体を発見し、その救命胴

衣に同封した名札が縫い付け
てありました。

眉目秀麗な青年で遺体は墜
落にもかかわらず無傷の状態
でした。彼は多分激突のショ
ックで死亡したのでしょう。

艦隊司令官は彼の遺体を完
全な軍儀礼にもとづいて水葬
することを指示しました。

そして郵便で届いたらしい
書かれたものは全て回収しま
した。

私は彼の所持品の中で、誰
かがインキで描いた松の樹の
美しいスケッチの郵便はがき
をはっきりと思い出します。

これは戦時中のことであり
多くの人々は敵を憎むことを
教育されましたが、祖国のた
めに命を捧げた、りりしい顔
立ちの若武者に接して、水兵
達多数の間に深い悲しみが拡
がりました。私もその一人で
した。

私の部下の一人であるE・
R・バーバーは感動のあまり
いつかこの悲しい戦いが終わ
りを告げた時、艦の士官と水

兵に尊敬された青年の戦死と
水葬の模様を彼の両親に知ら
せたいと思い、青年の救命胴
衣から、同封した名札を全く
自分の意思で、はぎ取りまし
た。

然し、転戦、移動とその後
の混乱からバーバー氏は大切
に保全して来た名札を無くし
たものと思っていました。

ところが、偶然にも、この
懇親会に出席するために準備
している最中に、彼の所持品
の中から名札を見つけたので
す。

そして彼は、日本の勇敢な
青年の遺族にとの彼の希望に
沿って私が努力することを願
って、私にこれを委託したの
です。

したがって、身元が確認さ
れ、彼の愛する人々に彼の戦
死の詳細が知られることを
希望し、この仕事を貴殿に寄
託します。私は丁度バーバー
氏からの手紙を再読している
ところで、彼はこの青年が戦
死した相手の飛行機はアメリ

方軍のバッテリーであることを明らかにしています。バーバー氏も私も身許確認ができたかどうか知らせていただければ非常に嬉しいと思います。

敬具

百雷の如き弾幕をつき、まっしぐらに敵艦に肉薄し、散華された凛々しい予科練生！激戦の最中にも関わらず、アメリカ軍を感動させた若武者そして何よりも人道的で、あくまで紳士的なアメリカ軍將兵たち！

戦後四十三年過ぎて、バーバー氏の悲願は？はたまたシヤーマン副長の労は果たして報われたのであろうか？

運命の名札は無事遺族の手に渡ったのである。そして戦死した花の若武者その名は、十九歳で散った乙十七期坂本政男一等飛行兵曹その人である。

彼は埼玉県大里郡寄居町出身、昭和十六年十二月、乙十七期生として岩国海軍航空隊に入隊、後三重空に転隊、昭

和十九年二月卒業後飛練を経て勇躍激動の南太平洋の大空に雄飛したのである。

彼の生まれた大里の地は、鎌倉時代かの有名な熊谷次郎直実や、悲劇の武將畠山重忠の活躍の天地。また、戦国時代は関八州を狙う後北条氏の最前線の地、源を甲武信岳に発し、岩をかみ、淵を洗って奔流するその名も荒川の激流を臨む断崖上に立つ、名城鉢形の古城に近い、豊かな歴史と美しい自然に恵まれた地である。

現在、兄の坂本弘氏が実家にいるが、実に四十三年ぶりに、運命の名札は無言の里帰りをしたのである。

坂本家では、奇しくも故政男一飛曹の遺書を刻んだ石碑



を建立したばかりで、何か因縁めいた気がしますと早速墓前に報告し、冥福を祈ったのであった。

雄翔館見学者所感

なお、坂本兵曹は昭和十九年十月二十六日クラーク発進後行方不明、所属は七六三空とのことである。 続く

東金市 阿部倉様

昨秋に続いて二度目の訪問です。今年の6月13日沖繩旧海軍司令部壕で行われた慰霊祭に友人7名で参加して参りました。又今年4月7日(戦艦大和撃沈の日)千葉県長生郡長柄町高山で太田實海軍中将生誕131年祭を挙行しその模様はケーブルテレビ市原の45分間の特別番組で放映されました。

人の心を熱く感じる事のできる時間でした。再び戦さとならない世の中を望みます。 令和四年七月

印西市 石川様

「沖縄県民かく戦えり」の電文が沖繩の本土復帰に及ぼした影響は大であると思えます。又、今年には沖繩本土復帰の50年目に当たります。慰霊祭(沖繩)については6月14日付沖繩タイムスに記事掲載！

令和四年七月

は病院の窓から飛び降り死に
たかったが嚴重な見張りで生
き永らえました。

そして、戦後、私が産まれ
ました。父が肋膜炎にならな
かったら今の私はいません、病
気に感謝とは変ですが感謝で
した。父の弟はダバオに出征
し生き残って帰りました。

叔父のいうには（動いてい
るものは何でも食べた）と言
ってました。母が叔父を迎え
に行つた時、あまりにもやせ
ていて髪の毛が真っ赤で、最
初だれだか分からない程でし
た。叔父からもよく戦争の話
は聞きました。末の父が海軍
兵学校（横須賀）の卒業生で
卒業アルバムもあります。ミ
ンダナオ島などと話は聞いて
いますが、今は天国（私の父
も）です。

戦争の悲惨さは言葉になり
ません。平和な時に育つた私
ですが、この時を大事に生き
たいです。若くして天国に行
かれた青年達のためにも!!、
同期の桜の歌はよく歌います

がこんなに悲しく響いたのは
本日が初めてです。靖国の桜
の下で安らかに眠って下さい
と祈るばかりです。

※皆様とても達筆で漢字も素
晴らしく感想文を書くのが恥
ずかしいですが、書きたくて
書いてしまいました。ありが
とうございました。

令和四年八月
三郷市 石川（御夫妻）様

かつて知覧にも行きました
が、若き予科練生の生きた地
があつたことをはずかしなが
ら知りました。

中学生を指導する立場です
が、皆、大変立派であること
におどろいております。
世界情勢が不安定な今こそ、
彼らに感謝したいと思いま
す。

（私の母方のルーツを探りに
こちらを訪問し、パンフで知
り訪問しました。）

令和四年八月

石川県金沢市 嶋様

昭和19年3月生まれの私
には実体験は有りません。こ
こに残っている手紙を見るに
つけ当時の青年達の心いきが
伝わって来ます。そのお陰で
現在の私達がいかに幸せでぜ
いたくな日常なのか、あらた
めて感謝しなくてはなりません
よね。 合掌

50年くらい前に亡夫と一
回目、10年位前娘達と2回
目ひ孫達と3回目来館です。

令和四年八月

東京都西多摩郡日ノ出町

田口様

雄翔館にある、遺書や遺品
がものすごくきれいにてんじ
されているのでどうやってキ
レイにたもっているのか少し
ぎもんが湧きました。昔の人
たちがどのように生活をして
いたり、ものすごく、くわし
く書いてあるのですごくびっ
くりしました。ありがとうございます
ございました。

令和四年八月

埼玉県入間市 津久井様

今僕たちが平和に過ごせて
いるのは、戦争時代に戦つて
くれた人達のおかげだと改め
て感じました。

雄翔館にてんじされている
遺品・遺書は昔の戦争中はど
れだけ大変な状況でくらし
ていたことや、大変な思いをし
たかを感じられました。

令和四年八月

東京都羽村市 津久井様

小学校高学年の息子2人を
連れ、家族4人で見学させて
頂きました。飛行機好きの子
ども達は模型や残骸（ゼロ一
戦）に大変興味をもってくれ
たので、大人は、少しゆっく
り展示物を見学させて頂きま
した。予科練生の方々があつ
うの少年だったのに命をかけ
て戦わざるを得なかったこと
がすごく心に刺さりました。
子ども達がもう少し大きくな
ったらまた別の視点で見学で
きる日が来ることを嬉し
しいです。

令和四年八月

牛久市(お名前記入なし)

はじめて見学させていただきました。特攻に行かれた方の遺書や遺品を見たのははじめてで心に強く残りました。遺書を書いた方、受けとった方がどのような思いで生きていたのか考えても及ばないほどの苦しみがあったと思えます。現在も戦争のある世の中ではありますが人が殺しあわずに生きて行くためにどうすればいいのか、これからも考えていきたいです。貴重な資料を見せて下さった御遺族の方々に感謝いたします。ありがとうございます。

令和四年八月

埼玉県 森様

一言です。なぜ生かされているのか?を念頭に、命を大切に生きて行きます。

今日一日平和で過ごしていけるのも皆様のおかげです。有難うございます。

令和四年八月

船橋市 森山様

まだ十代二十代半ばの若者達の、その見識の高さ、慧眼の鋭さ、叡智の積み重ねから発せられる言葉のひとつひとつの重み、厚みには心底感じ入ると共に、心から敬意を表する。今後とも当施設から次の世代へ、この平和への崇高な思いを引き継がれんことを切に願う。

令和四年八月

(住所お名前記載なし)

たくさんの予科練がいたことがわかりました。

家族に会いたくても会えなくても最後、自分が死んでも悲しまないでと書いてあったので悲しい、気持ちになりました。

(日付・住所・氏名記入なし)

たくさんの人々の上に私達現代があるとしみじみ感じました。他の人にもこの施設を

見て感じて頂きたいと思いません。ありがとうございます。

(日付・住所・お名前記入なし)

ちょうど自分と同じ年ごろの青年たちが国のため、命を懸けたという事実は私がその年になってから見ると尚のことと重く感じられます。無謀なる上層部の捨て駒といつてはかわいそうですが、彼らの彼らなりの心を慮るのは易さようで難しく、かつ深遠なものです。今の世の中を見る上で忘れてはならない。

英霊たちに 合掌!

令和四年八月

つくば市 飯田様

たくさんの人たちが、20歳や18歳で死んでしまっている方が多く、おどろきましました。今、私たちが生きられているのはこの航空隊の方たちが戦争でたたかってきてくれたおかげなのか、あらためて分かりました。亡くなった人

のことを、こういうかたちで知れてよかったです。ありがとうございます。

(日付・住所・お名前記入なし)

えいぞうをみてすごかなくしくなりました。じぶんからしぬなんてそうぞうもつきませんでした。それでかわいそうだなとおもいました。これからもしねとかじぶんがしぬていわないようにします。せんそうをしないようにねがいます。

令和四年七月

(住所記載なし) 森様

日本人にはとても良いです。もつと多くの人に來てもらいたい。英語、中国語の文及びアナウンスがあると外国の人もたくさん来てくれると思う。

令和四年九月

市川市 片山様

犠牲者の方々の遺影、手紙、戦死の状況を拝見し改めて

戦争の悲惨さ、犠牲の方々への尊敬の気持を持った次第です。これからもこの施設・展示が後世の人達に長く伝えられることを強く望みます。

令和四年九月

ひたちなか市（無記名68歳）

中学3年の娘と見学にきました。今の若者は物や情報があふれかえる中、心は貧しく、未来志向ではありません。昔の日本人を知り、若くして亡くなった方々を知り、どうかしっかりとした人間に育て欲しいとの思いで連れて来ました。

令和四年九月

つくば市 小笠原様

静岡県自衛隊防衛協会に入っています、18才〜19才の若い人達の命のおかげで今の日本があると思います。本当にありがとうございます。

令和四年九月

静岡県藤枝市 成島様

戦争は絶対いけない！と強く思いました。

立派な記念館の設営感謝申し上げます。

令和四年九月

日光市 半田様

私は20代の若者であるが、70年以上前に同年代の人々がなくなっていることは認識していたつもりだった。しかし一人一人に人生があることをあらためてきずかされ、かれらの犠牲の元に今の自分がいることを忘れずに生きていこうと思った。

令和四年九月

(住所記載なし) 藤本様

遺書 遺品の管理ご苦労様です。皆様の手厚い管理で素晴らしい展示です。私は戦争を知らない年齢ですが、胸がとても苦しいです。息子は26、23歳になります。が、息子より若い青年の顔を見ていると涙が出ます。皆の顔写

真に囲まれていると本人達家族母親はどんな思いだったか、ただただつらい。でもここに來てる事が、忘れない事が大切であり、彼等らの願い、幸せなのかと思います。そして私たちの幸せなのかと思います。

筑波海軍記念館にも写真があります。かれらの思いとここにある彼達も忘れないように心にきざんで。また来ます。瞳の奥、まつすぐな目。ありがとう。

令和四年九月

東茨城郡茨城町 上田様

台湾の空で散華された

予科練の皆さんを

連れて帰りたい

令和四年九月

小金井市 山本様

(公財)海原会寄付者芳名簿 (敬称略) (単位千円)

令和四年九月二十日より

- 一〇 原島 淳子(一般)東京
- 二 マイトモヒデ(非会員)
- 一〇 高山智恵子(丙12遺)北海道
- 五 宮崎 修士(一般)茨城
- 五 岩澤 末三(甲14)東京
- 一〇 六車 昌晃(一般)東京
- 五 遠藤 五六(乙20)福島
- 一〇 都築 倍彬(甲13遺)大阪
- 五 清水香代子(一般)愛知
- 三〇 高瀬龍太郎(一般)茨城
- 五 宮川 正夫(乙18)北海道
- 五 清水 亮(一般)埼玉
- 五 太田 誠二(乙11)滋賀

海原会へのご芳志

誠に有難うございました。



九月二十八日

雄翔館定期点検立合

於 武器学校

事務局日誌

雄翔館自動ドアの定期点検のため、平野理事が立ち合

二十九日

武器学校OB会幹事会

於 武器学校

OB会幹事会が開催され平野、篠田、両理事が参加

十月

九日～十一日

大阪大学学生来局

於 事務局

大阪大学四回生の、西様が、卒業論文作成のための資料収集の目的で、来局

十二日

三者連絡会

於 事務局

予科練平和記念館、阿見町観光ガイド、海原会による

三者連絡会を開催

安井理事長、平野事務局長が参加

十九日

公益法人セミナー

於 事務局

内閣府主催の公益法人セミナーに、平野理事と木下事

務局職員が、ZOOMを利用したWEB会議で参加した。

二十二日

海上自衛隊下総航空基地開設記念行事

於 下総基地

安井理事長、平野理事の両名が出席した。

二十四日

甲飛十期宮原田一飛曹のご遺族友人(高島様)面談

於 武器学校広報班

ご遺族の依頼を受けて、宮原田一飛曹のご遺影を海原会に寄贈した。

二十六～二十七日

ご遺族来局

於 事務局&予科練平和記念館

乙飛十八期高木忠義様(二十年前にご逝去)の孫須

川様のご尊父様に関する資料収集のため来局 平野事務局長が対応

二十九日

十月定例理事会

於 事務局

出席者 安井理事長、酒井・星指副理事長・平野・篠田・湯原・山下理事、豊岡監事、行方参与、保坂理事(ZOMで出席)

三十日

阿見町戦没者追悼式

於 阿見町体育館

安井理事長、平野理事の両名が出席した。

十一月

二日

広告代理店広新社来局

於 事務局

十三日開催予定の、武器学校記念行事の産経新聞投稿記事への広告掲載について

三日

元予科練生甥来局

於 予科練平和記念館

生存予科練(近藤様)の甥(北野様)が、近藤様が保有する予科練関連の資料の

海原会への寄贈の事前調整のために来局

四日

元予科練生子息来局

於 事務局

元予科練生高瀬様(甲十四期)のご子息が、事務局を表敬訪問された。

十二日

武器学校記念行事前夜懇親会

於 ホテルマロウド筑波

前夜懇親会に、菅野名誉顧問と平野理事が出席した。

十三日

武器学校開設記念行事

於 武器学校

菅野名誉顧問、安井理事長、平野理事が招待され出席菅野名誉顧問と平野理事に感謝状を贈呈された

酒井副理事長、湯原理事、

ボランティア会員2名で雄翔館の案内を担当した。

十六日

三者連絡会

於 事務局

予科練平和記念館、阿見町観光ガイド、海原会による

三者連絡会を開催、安井理事長、平野事務局長が参加

海原会会員の皆様へ

小さくてもあたたかい

一日葬 家族葬

お葬式のご依頼や
「もしものとき」に
備えた事前のご相談
年中無休で承ります

相談 無料
見積

お客様満足度
99%

※
自宅葬、一日葬、お別れ会のほか、
ご希望に合わせた
お葬式プランがいろいろあります。

※当社施行客アンケート調べ

新型コロナウイルス感染拡大防止に万全を期しています。

お墓

お墓のことなら何でもご相談ください。墓石工事は信頼の10年間の保証書付きです。

墓所工事

標準価格
(10万円以上)の

10%割引

サービス提供エリア:
関東・関西・東海



「お墓のお引越しガイド
& 事例集」

無料で資料を差し上げます。

お葬式

葬儀一式をセット化した「葬儀式セットプラン」を各種ご用意。最適なプランをお選びいただけます。

葬儀

祭壇標準価格の

20%割引

※一部祭壇、一部商品を除く。
新花で送る家族葬は
優待料金
サービス提供エリア: 関東



「お葬式の流れが
わかる100項目」

無料で資料を差し上げます。

お仏壇

仏壇店は首都圏に2店舗(国分寺・千葉)。伝統型仏壇や家具調仏壇、手元供養商品まで豊富な品揃えです。

仏壇

店頭価格の

25%割引

※ただし、催事特価品と
仏具小物、手元供養商品
は対象外
サービス提供エリア: 関東



「お仏壇カタログ」
「特選 お位牌」

無料で資料を差し上げます。

お問い合わせは
海原会事務局へ

029-886-5400

お問合せの際は、「予約練を見た」とお申し出ください。

MAO
MEMORIAL ART OHNOYA



メモリアルアートの大野屋

<http://www.ohnoya.co.jp>



「予約練」第47号1・2月号
昭和53年7月26日第3種郵便物認可

令和5年1月1日発行
(隔月奇数月1回1日発行)

発行人
編集人

安井 剛
保坂 俊雄

発行所
〒

300-0301

公益財団法人 海原会
茨城県稲敷郡阿見町青宿489番地1

(慎輝ビル3階)

郵便振替
FAX 029-886-5400
029-886-5401
029-886-5402
029-886-5403
029-886-5404
029-886-5405
029-886-5406
029-886-5407
029-886-5408
029-886-5409
029-886-5410

定価500円